

## ●「源プロポリス粉末」の商品内容と特徴

### ①何故「粉末」にこだわったのか？

開発者中村博彦氏は末期に近づいており、通常のアルコール抽出による製品では対応できないほどのプロポリス量を必要としていました。また、アルコールそのものを体が受け付けない状態だったのです。

また、やっと探し当てた貴重で沢山の有用成分が閉じ込められている「**di-T プロポリス**」の成分の全てを「まるごと」摂取できるようにするためには、抽出法ではなく、原塊を粉砕してそのまま粉化する方式しかないとの結論に至ったのです。

### ②「粉化」の苦労

プロポリス原塊を「粉化」するには、原塊を粉砕しなければなりません、その粉砕の時に熱が出ます。この熱でプロポリスが溶けて、機械にへばり付いてしまうのです。

F社様の創意と工夫が「粉化」を実現しました。

しかしこの製法では、**製造費はアルコール抽出の4~5倍**となってしまいます。本商品の販売価格は、非常に難しい粉化をF社様のご協力の賜物で実現した価格です。

株アムスライフサイエンス様による食品衛生法に基づく**確実な検査**を経て商品化が実現できたのです。

### ③「源プロポリス粉末」の配合表とアルコール抽出製品との比較

1包にはプロポリスがまるごと粉体化して400mg配合されています。

アルコール抽出の液体プロポリス場合の容器（スポイドの1滴）にもよりますが、0.03~0.05cc、仮に0.03ccの場合、液体プロポリスの比重が水とほぼ同じとしますと  $1\text{cc} \div 1\text{g} = 1,000\text{mg}$  ですから、 $0.03\text{cc} \times 1,000\text{mg} = 30\text{mg}$  に相当します。プロポリスエキス濃度50%の商品であれば、エキスの量は15mgとなります。

つまり、液体プロポリス27滴(=400mg/15mg)に相当するプロポリスエキスが1包に配合されていることとなります。1日「源プロポリス粉末」3包(プロポリスエキス1.2g)に相当するアルコール抽出プロポリスの量は1日に約80滴を飲むことになり、同時に40滴分のアルコールを飲むこととなるのです。

原材料配合表

	原材料名	配合量/mg	%
1	プロポリス粉末	400.00	23.53
2	マグカル末	100.00	5.88
3	シナモン末	255.00	15.00

4	乳糖	272.00	16.00
5	還元麦芽糖水飴	153.00	9.00
6	デキストリン	419.99	24.71
7	ビール酵母	100.01	5.88
	合計	1,700.00	100.00

#### ④プロポリスの種類による効果の比較

##### マウスを用いたプロポリス作用試験

(株)プロポリス中央研究所提供の(株)新薬開発研究所試験データによる。)

下記の(A)(B)(C)いずれも 7 匹ずつのマウスに同種・同量のマウス試料を移植し、14 日間の当該試料重量の経過をみたもの。

(A)プロポリスを与えなかった群

(B)グリーン系プロポリスを 20mg/kg/day 投与群

(C)「di-T プロポリス」を 20mg/kg/day 投与群

対象マウスの試料重量経過結果の平均値と固体差の上下は以下のとおり。

(A)=2,176g±261.5g・・・±はマウスの固体差を示しています。

(B)=1,476g±483.0g=平均(A)の 67.8%

(C)= 703g±27.4g=平均(A)の 32.3%=平均(B)の 47.6%

(B)と(C)のプロポリス主要成分の差異は、HPLC 分析チャートに(B)には見られなかった **Diterpenes** の存在示唆ピークが(C)には見られたこと。

なお、体重所見から、急性毒性は観察されなかったが、500 および 2,000mg/kg、つまり上記実験の 20mg/kg の 25 倍から 100 倍のプロポリスを単回投与してみたが、急性毒性は観察されなかったことを確認した。

このマウス試験の結果は、玉川大学ミチバチ科学研究施設の松香光夫教授らによって、平成 15 年 10 月 25 日の「第 6 回日本補完代替医療学会学術集会」で発表され、「緑より茶が効く！ プロポリスの効果 玉川大学マウス実験で確認」と「平成 15 年 10 月 23 日の日刊工業新聞」にも取り上げられた。

(注) 実験では、20mg/kg 以下では有意な縮小効果がみられないケースもあった。そのため、当社では治療目的使用の場合は、1 日につき、20mg/kg を下限とし、その 3 倍を上限としています。